重要技術戦略研究所（ICETS）の設立とAI技術インテリジェンス構想

内閣府は2026年11月、日本の科学技術投資判断を高度化するため「一般社団法人重要技術戦略研究所（ICETS）」の設立を発表した。AIを国家技術インテリジェンスの中核手段と位置付け、使用モデルやガバナンス等の具体仕様には多くの未公表事項が残されている。

ICETSの組織概要とAI活用構想



一般社団法人として正式設立

予算3.35億円で調査分析・人材育成・ネットワーク構築を一体適用。

AIを技術インテリジェンスの中核に

論文・特許等の解析で萌芽技術を検出し投資判断を高度化。





人間主導の分析モデルを推奨

AIによる予兆検出と専門家による反証・検証を組み合わせた運用。

実装における現状の課題とリスク管理



具体的技術スタックは未公表

使用LLM、RAG構造、精度評価指標等は公開資料で未指定。



幻覚やバイアスへの対策が不可欠

誤評価を防ぐため根拠保持や時点固定テスト等のリスク管理が必要。

欧米先行機関の事例が参考



ICETSにおけるAI活用・組織運用の公表事実と未公表要素の対比

公表された構想・事実	未公表の具体仕様・課題
組織形態・財源: 一般社団法人／2026年度予算 約3.35億円	定款全文、将来予算、詳細なガバナンス規程
AI分析機能: 論文・特許・資金データの統合、予兆分析	利用LLM、RAG構造、知識グラフの具体仕様
運用・品質管理: 専門家による検証、ゼロトラスト基盤構築	精度評価基準、ハルシネーション対策、COI規程

Gemini Notebook